



事業継続への取り組み

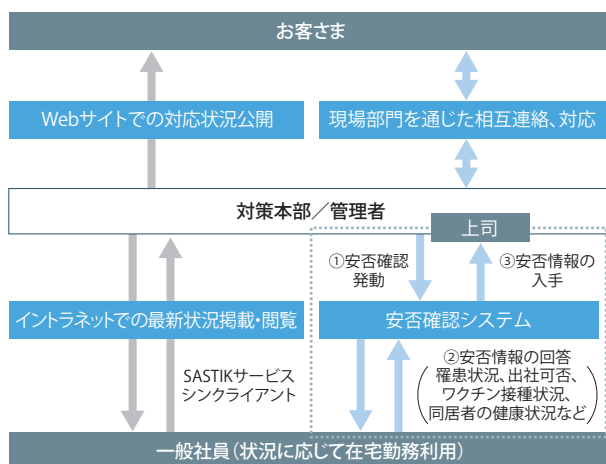
新型インフルエンザの世界的な流行(パンデミック)時や大規模災害時において、社員と家族の安全を守るとともに、情報システム稼働に向けた事業活動を継続する社会的責任を強く認識し、2006年からグループ企業全体としての対策・取り組みを推進しています。

2009年4月、感染拡大時の対応

2009年4月下旬、新型インフルエンザの感染が短期間のうちに各国へ拡大していきました。日本ユニシスグループでは4月28日に対策本部を設置するとともに、当社グループの行動規程で定められている、被害レベルに応じた方針に則って対策を進めていきました。また、行動規程および対応状況についてはWebサイト上でリアルタイムに公開・更新し、お客さまや社外からの問い合わせ対応時にもWebサイト情報を確認いただくようにしました。

一方、社員においては、「SASTIK®サービス(P.21参照)」やシンククライアントなどの利用による在宅勤務を通常勤務と認める方針を出し、全社員が在宅勤務を利用可能な体制に移行しました。また、5月21日には安否確認システムを用いて、全社員の安全を確認するとともに、改めて社員に対応方針を徹底しました。

新型インフルエンザ感染拡大時における日本ユニシスグループの対応の概要



<http://www.unisys.co.jp/csr/bcp.html>

ICT事業者としての 新型インフルエンザ対策の取り組み

新型インフルエンザの感染拡大時、社員・家族の安全確保と業務継続のための体制へ迅速に移行し、行動計画に基づく対応を着実に実行します。

新型インフルエンザ対策— ICT企業ができること

2009年4月に世界的に感染が拡がり国際社会における大きな脅威となっている新型インフルエンザ。日本ユニシスグループにおいては、感染拡大時に社員とその家族の安全を守るために、また社会インフラである情報システム稼働に向けた事業活動を継続するために、安否確認システムの導入や、社員が外出せず在宅で勤務可能な環境を整備するなど、ICT企業の特徴を活かした対策を継続的に推進しています。



CSR活動の意識の高さは企業の品格を表すと思います。本業をとおしてのCSRを柱に、ほかの活動にもできるだけ協力していくつもりです。
1975年入社 堀内 淑子

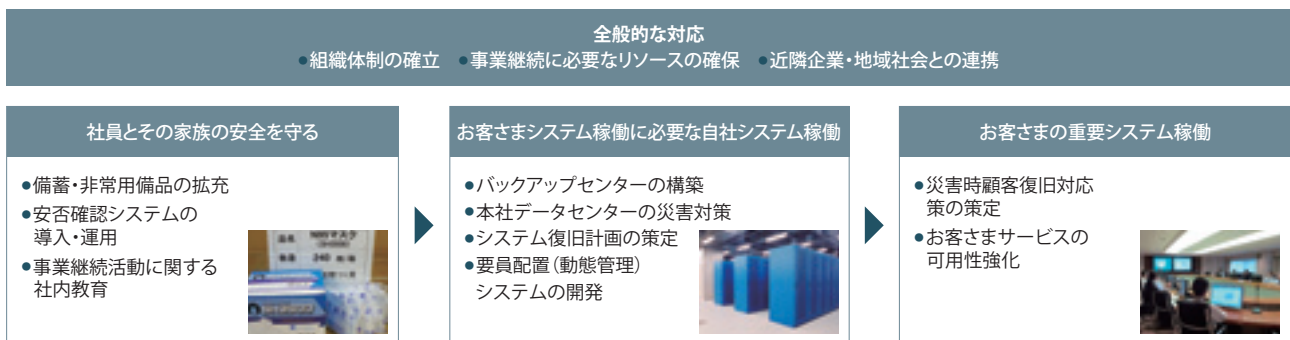


入社以来35年、小売業のシステムに携わってきました。若者と仕事について語り合い、自分の経験を役立ててもらえることがやりがいです。
1974年入社 出口 直

事業継続管理フェーズへの移行

関連領域ごとに策定した事業継続計画を、より実行性の高いものにしていくために、現在では「事業継続管理」フェーズの活動を進めています。また、当初からの対象リスクであった地震などの災害対策も進み、2007年度からは新型インフルエンザまでを対象範囲とした取り組みを継続的に推進しています。

事業継続計画の概要



VOICE

新型インフルエンザ対策 本部／現場部門それぞれの立場から

マネジメントを続けることで、実行性の高い計画を作っていく

事業継続の推進において意識していることは、計画の細部にとらわれてアクションが止まることのないようにすることです。想定外のケースを含め、現実に応じた対応をするためには、継続的なマネジメントにより、計画のブラッシュアップを重ね、より実行性の高い計画にしていくことが重要だと感じています。

2007年度よりBCPプロジェクトのなかで新型インフルエンザ対策に特化した分科会を立ち上げて以来、現場部門の意識が高まってきているのを感じています。今後もプッシュ型の情報発信やeラーニングなどによる啓発をとおして、意識レベルの維持を図っていきたいと思います。

また、2009年4月以降の感染拡大への対応を通じて見えてきた課題を整理し、今後の行動計画や対策に活かしていくことが重要だと考えています。

本部側
CSR推進部
事業継続グループ
麻績 久仁子



お客さまとの平時からの意識合わせが重要

新型インフルエンザ対策の取り組みは2007年から日本ユニシスグループ全体で進めてきており、2009年4月からの新型インフルエンザ感染拡大に際しても、事務局を窓口とした統制の取れた対応ができていると思います。とは言え、社内では統一されていても、個別のお客さまの間では、対応方針や意識のギャップがあることもあり、お客さまとの平時からの意識合わせが非常に重要であると感じています。また、サポートサービスにおいては、感染拡大防止策の一つとして、要員の外出移動を少なくするためのリモート保守などの充実を進めてきています。さらに、感染拡大時の要員確保のためには、バックアップチームの編成や代替策を、現場部門でも検討しておく必要があります。

現段階で挙がっているお客さまからの要望を再度整理したうえで、サポート体制を確立し、状況に応じた柔軟な対応をしていくことが重要だと考えます。

現場部門
ユニアデックス 企画部 部長
鎌上 良悦



社員が会社に誇りを持ち、お客さまや社会から「よい会社ですね」と認められ、信頼され続けるような企業でありたい。

1973年入社 兵頭 良一



伊豆エグゼクティブ・センターへご来館のお客さまに、施設やホスピタリティ、料理に満足いただけたとき、自分たちもHappyな気持ちとなります。

1972年入社 袴田 明典